

景況レポート

(2月分・情報連絡員80名)

業界全体の景況DI値が4ヶ月ぶりに改善

【概況（全体）】

2月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが8.8%（前回調査10.0%）、「悪化」が32.5%（同36.3%）で、業界全体のDI値は-23.7となり、前月調査と比較して2.6ポイント上回り、平成27年10月以来4ヶ月ぶりの改善となった。

全国及び東北・北海道ブロックとの比較では、本県の製造業のDI値は依然として上回っており、全体の景況DI値を押し上げている。一方、非製造業は、前月に引き続き需要の減退等により低調に推移した。

【業界別の状況】

業界別では、運輸業（トラック）が前月に引き続き比較的好調であったほか、繊維工業では国内生産回帰の動きにより受注が好調に推移した。また、木材・木製品では悪化割合が縮小した。一方、小売業やサービス業、窯業・土石製品（生コンクリート）などは、個人消費や需要の低迷により低調に推移した。

全体の景況感としては、公共工事発注や住宅着工をはじめとする需要の低迷や諸材料の高騰等により景気回復を実感できない状況が続いている。また労働力不足の顕在化や、マイナス金利など金融環境も流動的であり、中小企業の先行きは依然として予断を許さない状況にある。

<全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較>

| | 秋田県 | 全国 | 東北・北海道 |
|------|-------|-------|--------|
| 全体 | -23.7 | -27.8 | -23.5 |
| 製造業 | -6.3 | -28.2 | -23.3 |
| 非製造業 | -35.4 | -27.5 | -23.6 |

<景況天気図>

| 項目 | 業界の景況 | 売上高 | 販売価格 | 取引条件 | 資金繰り | 雇用人員 |
|------|-------|-----|------|------|------|------|
| 製造業 | | | | | | |
| 非製造業 | | | | | | |

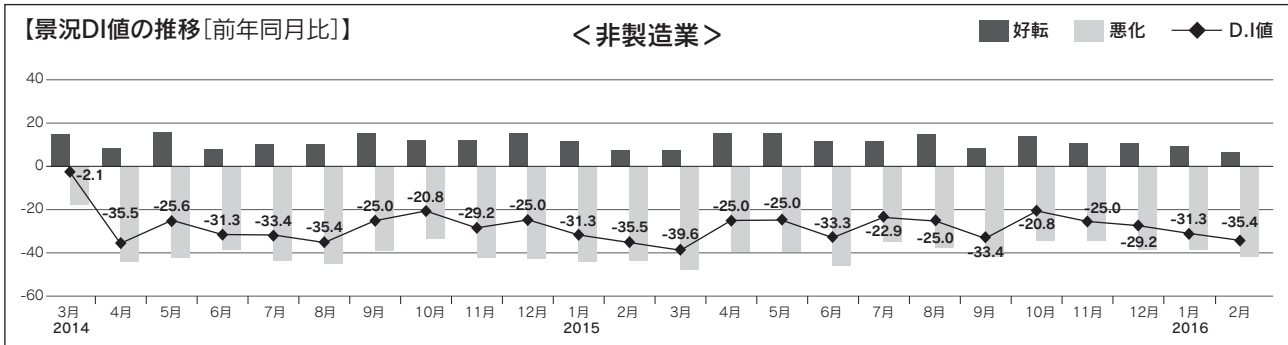
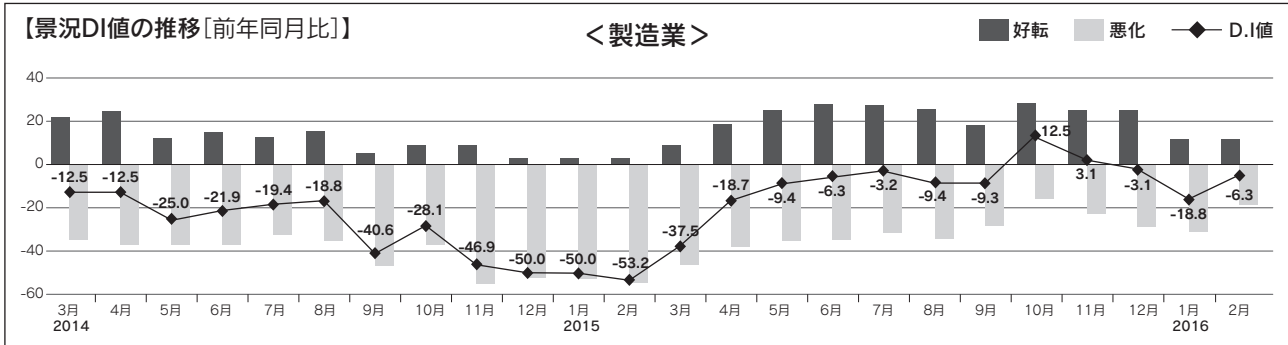
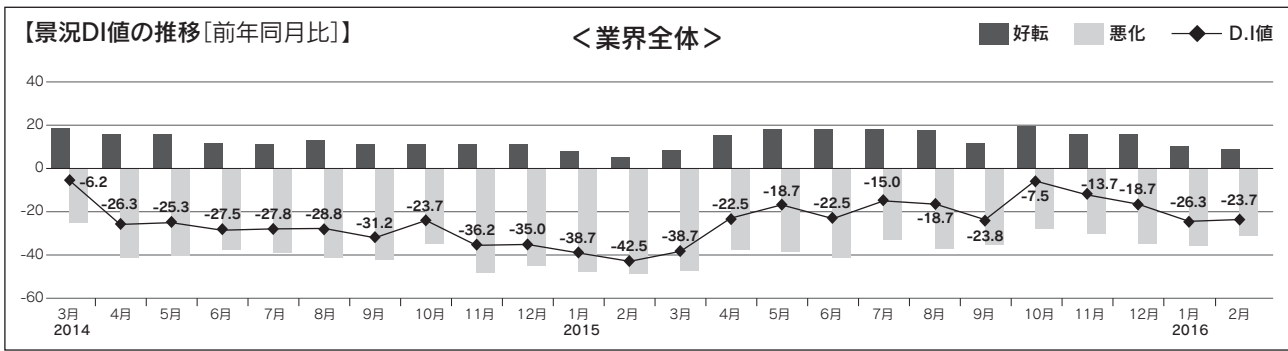
【凡例】 【天気図の見方】
前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index（ディフュージョン・インデックス）の略で、増加（好転）したとする企業割合から、減少（悪化）したとする企業割合を差し引いた値です。

【業界の声】 ～製造業～

(回答数：32名 回答率：100%)

| | |
|----------------------|---|
| 食料品 (精穀・製粉) | 需要の停滞により、厳しい状況が続いている。また、原材料は依然として高値で推移しており、利益率が改善されない。 |
| 食料品 (菓子) | 原材料の値上がりや個人消費の低迷が続き、厳しい状況となっている。 |
| 繊維工業 (繊維製品) | 各社とも受注状況は好調に推移したが、最低賃金の上昇に伴う諸経費の増加等により、ようやく前年同月並みの収益を確保している企業が多い。(県北地区) 国内生産回帰の動きにより受注機会は増加しているが、納期の集中・前倒し等による生産能力超過により、十分に需要を取り込めていない。また、気温の変動が大きい商品が売れにくくなっており、期中の追加発注等は減少傾向にある。(中央地区) |
| 木材・木製品 (一般製材) | 消費税増税前の需要増加への期待感もあるが、製材品の価格は低調に推移しており、現状では、荷動きが大幅に改善する見通しはない。(県南地区) |
| 印刷 | 需要の動向が非常に鈍いことに加え、低料金の改善も進んでいない。また、円安による諸材料や電気料金等の値上がり分を価格転嫁できず、経営を圧迫している。(中央地区) |
| 窯業・土石製品 (生コンクリート) | 2月の出荷数量は前年同月比86.2%、4月～2月の累計では前年比83.6%で推移した。能代山本地区や本荘由利地区では前年並みの出荷数量となっているが、それ以外の地区では前年比70%前後で推移しており、全体的として厳しい状況が続いている。 |
| 鉄鋼・金属 (機械金属) | 2月の売上は前年同月を上回ったが、前月と同様に各企業とも新規受注では厳しい状況が続いているため、仕事量は減少傾向となっている。 |
| 一般機器 (金属加工) | 2月の売上は、前年同月比ほぼ横這いで推移した。原材料価格は値下がり傾向となっているが、依然として短納期で利幅の小さい仕事が多いため、先行きが不透明な状況にある。 |
| その他の製造業 (漆器) | 2月は「川連漆器総合展示会」や首都圏での展示会等があり、多忙であった。なお、川連漆器伝統工芸館及び組合の売上は前年を上回っているが、業界全体では厳しい状況となっている。 |



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：48名 回答率：100%)

卸売業 (自動車中古部品) 2月は、鉄の買取価格が1トンあたり1,000円低下した。今後、買取価格が改善される見込みはなく、使用済自動車の発生台数及び在庫台数も前年に比べ減少している。

卸売業 (青果) 2月の売上は、前年同月比114%で推移した。平年よりも稼働日数が一日多かったほか、野菜の生産量が減少し価格が高騰したため、売上が増加した。

小売業 (電機) 2月の売上は、前年同月比で5%弱減少、下半期の累計でも前年比15%減少となり、景況は悪化した。(秋田市)

商店街 商況全般は前年同月比で「不変」となっているが、地区外の商業施設への客の流出や買い控えの傾向などのマイナス要因が多く、売上は前年同月比10～15%の減少となる見通しである。(秋田市)

サービス業 (タクシー) 速報値では、前年同月比で運行回数が100.4%、運送収入が99.2%と運行回数では前年同月を上回った。なお、乗務員不足により稼働率が低下し、需要に対応しきれていない地域も見受けられる。

建設業 (一般建築) 各官庁の補正予算が少なく未発注の工事が多いため、景気の回復は感じられない。また、除排雪の需要も少ないため、厳しい状況が続いている。

建設業 (管工事) 暖冬により受注工事の早期完成が図られている一方、水道管凍結の修繕等の需要は皆無となっている。(大館市)

運輸業 (トラック) 軽油価格が底値となっていることに加え、組合の共同事業も順調に推移しており、業況は前年同月に比べて好転している。なお、雇用人員は前年同月比で減少しており、特に、長距離運転のドライバーが不足となっている。(中央地区)

その他の非製造業 (砂利採取) 業界を取り巻く環境に大きな変化は無く、業況は低調に推移した。